

	金融能力	金融に関する実行力	金融に関する責任能力
<p>ステージ1：                      基本を理解する                      （1～2年                      ＜5～7才＞）</p>	<p>&lt;お金とは何か、お金の交換機能&gt;                      ・使用する紙幣・硬貨を、例えば、硬貨それぞれの違いを説明することにより認識する。                      ・国によって異なる硬貨・紙幣を使用していることを、例えば、海外の硬貨を見せたり、話し合ったりすることにより理解する。                      ・紙幣や硬貨と、ものとの交換について理解させる。例えば、ロールプレイによる買物をして、正しくお金が数えられるようにする。                      &lt;お金はどこからくるか&gt;                      ・お金は定期的なルートまたは予期しないルートで入ってくることを認識する。例えば、収入、諸手当、給付金、こづかい、祝い金、賞金などからくることを話し合ってみる。                      &lt;お金はどこに行くのか&gt;                      ・買いたいものについて話し合うことができる。例えば、教室に50ポンドあったら、何をかうかを議論する。                      ・大人は家計費のように家族のための支出をしなければならないことを認識する。例えば、食費・光熱費やカードなどについてロールプレイで調べてみる。</p>	<p>&lt;お金を管理する&gt;                      ・お金を安全に保管する方法について知る。信頼できる大人に渡す方法や鍵をかけるなどの方法があるが、例えば、校外学習の交通費をどのように管理するかについて決定してみる。                      ・お金のやりとりに関する記録をつけることが重要であることを理解し始める。例えば、Janet &amp; Alan Ahlberg 著の「The Jolly Postman」のプロジェクトを題材に、教室で児童の想像上の貯蓄を管理する銀行をロールプレイで運営してみる。                      &lt;お金を使う、予算をたてる&gt;                      ・購入するものに対してお金を支払わなければならないことを知る。例えば、校外学習として店に出かけていく。                      ・お金の使い道を考えることができる。例えば、5ポンドで何が買えるかをブレンストーミングしてみる。                      情報コミュニケーション技術の活用                      児童にコンピューターで買物リストを作成させてみる。                      &lt;リスクとリターンの基本&gt;                      ・お金を紛失することや盗まれることの結果を理解する。例えば、返す必要のあるものをなくしたとしたらどうなるか、お金の場合にはどういうことになるのかについて話し合う。</p>	<p>&lt;個人の人生における選択&gt;                      ・お金をどのように使うのかを、例えば、10ポンド与えられたとしたらどうするかを選択する。                      ・お金の価値について話し始め、例えば、5ポンドは大金か、あるいはどういう時に大金かを話し合う。                      ・お金の使い方およびものを買うことからの満足感が様々であることを話し始める。例えば、John Burningham 著の「Would you rather...」を題材に子供の選択肢について話し合う。                      &lt;消費者の権利と責任&gt;                      &lt;金融のインプリケーション&gt;                      ・多かれ少なかれお金を持つことの意味を理解し始める。例えば、お菓子を買うお金がないとどうか、帰宅するバス代がないとどうか、あるいは学校にお金がないとどうか、などを議論してみる。                      ・国によって生活水準が異なることを理解し始める。例えば、国によって収入や物価が異なることを調べてみる。                      情報コミュニケーション技術の活用                      児童が国によって収入や物価が異なることを調べるのにコンピューターを利用する（例えば、Oxfam's On the Line のホームページ&lt; <a href="http://www.ontheline.co.uk">http://www.ontheline.co.uk</a> &gt;）。</p>
<p>ステージ2：                      自信をつけさせる                      （3～6年                      ＜7～11才＞）</p>	<p>&lt;お金とは何か、お金の交換機能&gt;                      ・現金以外のお金、すなわち小切手帳、クレジットカード、デビットカードについて、および、これらの決済がどのようになされているのか、クーポンや金券と同じようになされているのかを知る。例えば、買物の総額を計算して、その金額の小切手をきってみる。                      ・現金がものやサービスの唯一の支払手段ではないことを理解する。例えば、インターネットや通信販売について調べ、比較してみる。                      ・クレジットの概念を理解し始める。例えば、商店街におけるクレジットカードの利用状況を調査してみる。単純化された事例を用いて支払いを計算したり、比較してみる。                      情報コミュニケーション技術の活用                      調査に当たり児童にインターネットを利用させるのも一案。                      &lt;お金はどこからくるか&gt;                      ・仕事の対価として収入が得られることを、例えば、地方紙における求人広告を題材に理解する。                      ・失業または十分な仕事がないときに生活保護という給付金が得られること、およびどのように支払われるかを理解する。例えば、失業者への対応を現代とビクトリア王朝時代を比較して話し合ってみる。                      ・引退後に、お金 年金 が必要であること、年金がいかに支払われるかを理解する。例えば、Anne Fine 著「The Granny Project」を題材に引退について話し合ってみる。                      &lt;お金はどこに行くのか&gt;                      ・家計の支出や定期的な金融取引、例えば、住宅ローン、家賃、光熱費やカード、保険などについて認識する。                      ・税金や社会保険料が収入から控除される理由を理解し始める。例えば、税金として控除されたお金が学校などに使われていることを話し合ってみる。</p>	<p>&lt;お金を管理する&gt;                      ・（銀行、ビルディングソサエティ、郵便局に）口座を開設することによって、お金を安全に管理することを理解する。例えば、1ポンド、100ポンド、1万ポンドを安全に保管する適切な方法を決定する。                      ・金融取引の記録をつけることの重要性を理解する。例えば、お金が紛失した場合にどのように知るかを話し合う。学校はお金をどのように管理しているのかを確かめる。                      情報コミュニケーション技術の活用                      学校がお金の管理にコンピューターをどのように使っているのかを児童が校長と話し合う。                      &lt;お金を使う、予算をたてる&gt;                      ・欲しいものや買わねばならないものを購入するために十分なお金がなければ、貯蓄することが必要であることを理解する。例えば、夢の買物リストを作成してみたり、どの項目が貯蓄に回せるか、どのようにできるかについて話し合う。                      ・貯金箱が貯蓄の唯一の方法ではない（「お金を管理する」の項参照）ことを理解する。例えば、お金を保管するのに、ポケット、財布、貯金箱、預金のどれが最も安全な方法であるかについて話し合う。                      ・計画を立てたり、将来を考えたりすることができるようになる。例えば、中期的なクラスのプロジェクトのために学校からお金を借りる計画を児童に立てさせてみる。                      情報コミュニケーション技術の活用                      児童が将来の計画をたて、支出を記録するためにスプレッドシートを利用する。                      &lt;リスクとリターンの基本&gt;                      ・確率と保険の原理について理解し始める。例えば、宇宙人からの攻撃に備えて自宅に保険をかけるのは適切か、嵐の被害や盗難に関する保険についてはどうか。                      ・貯蓄によって、お金からお金が得られることを理解する。例えば、貯蓄のしやすさや金利などの観点から様々な貯蓄方法を比較検討してみる。                      情報コミュニケーション技術の活用                      児童が記録にスプレッドシートを利用して、様々な貯蓄方法を比較する。</p>	<p>&lt;個人の人生における選択&gt;                      ・お金をいかに使うかを決める。例えば、仮に、10ポンド、100ポンド、1,000ポンド、10,000ポンドが支給されたとしたらどうするだろうか。                      ・ニーズと欲しいもののバランスをとり、限られたお金の中での優先順位をつける。例えば、Jacqueline Wilson 著の「The Bed and Breakfast Star」などを題材に、限られた予算の中でニーズと欲しいもののバランスをとることについて話し合う。                      ・良い（計画され管理できる）債務と悪い（無計画で管理できない）債務の相違を理解する。例えば、携帯電話料金を調査し、最良の取引はどれか、どのような取引がお金の使い方を管理できるか、を考えてみる。                      ・様々な環境の中で、最良の買物を見極めることができる。例えば、最も大きな箱はいつもお買い得か、最高価格のトレーナーはその価値があるか、100万ポンドあったら何に使いたいか、またその理由は何か。                      ・お金を使い、ものを購入することから得る満足感が様々であることを、ものが存続する時間や、どの程度機能するか、興味を持ち続ける時間に留意しながら、議論することができる。例えば、過去あるいは現在ブームになっているもの（たまごっち、ヨーヨー、ポケモン）の金銭的価値ならびに個人的価値を、ズボンや誕生日プレゼントと比較してみる。                      &lt;消費者の権利と責任&gt;                      &lt;金融のインプリケーション&gt;                      ・生活水準が時間と空間に応じて異なることを理解する。例えば、現代とビクトリア王朝時代の収入と物価を比較してみる。なぜ、某国は国際援助を訴えるのか、何を希望しているのか、どのように手をさしのべることができるのかを話し合ってみる。                      ・金融取引の決定に関して道徳的側面があることを理解する。例えば、様々な製品がもたらす環境へのインプリケーションについて話し合ってみる。環境に与えるダメージが小さい製品の方が高価でも購入に値するだろうか。                      情報コミュニケーション技術の活用                      児童が海外の児童とe-mailでコミュニケーションすることによって他国の物価を調べる。</p>

	金融能力	金融に関する実行力	金融に関する責任能力
ステージ3： 自信を深める (7~9年 <11~14才>)	<p>&lt;お金とは何か、お金の交換機能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小切手、小切手保証カード、デビットカードを含めて支払い手段に様々な方法があることを、理解する。</li> <li>クレジットカード、ショッピングカード、通信販売などを含む様々なクレジットや借入方法について理解する。例えば、衣類を購入する場合に、現金払いと、後払いのどちらが有利かを考えてみる。</li> <li>外国為替レートが変動し、通貨の両替には手数料がかかることを理解する。例えば、一定期間ポンドの為替レートを記録することや、10ポンド、100ポンド、1,000ポンドをフランに交換して、またポンドに戻す計算を試みる。</li> <li>お金が社会にとってなぜ必要であるのかを理解する。例えば、単純な物々交換社会に関する本を読み、物々交換が現代社会に合うかどうか、病院や毎週の買物の支払いはどのようにできるかを話し合う。</li> </ul> <p>&lt;お金はどこからくるか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収入や給料がどのように計算されるのかを理解する。例えば、地方紙の広告にある仕事について年収あるいは月収の手取額を比較して計算してみる。</li> <li>給付金について理解する。例えば、収入調査があるものもないものも含めて各種の給付金について情報を収集し、比較する。</li> </ul> <p>&lt;お金はどこに行くのか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の支出や支出の管理方法についての基本を理解する。例えば、環境問題のプロジェクトの一部として、光熱費を削減する方法を考察する。</li> <li>地方および国の税収や支出を理解し始める。例えば、税金の引上げが学校の改善につながるかを話し合ってみる。</li> </ul>	<p>&lt;お金を管理する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人の金融取引記録やその他の収入・支出の記録方法について知る。例えば、校外学習の一部として、領収書を集めて支出記録を作成してみる。</li> </ul> <p>&lt;お金を使う、予算をたてる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのようにして予算を立てたり、個人の支出を管理するのかを理解し始める。例えば、若者の1ヵ月の収入と支出を予算化するなどのケーススタディを行う。若者はどのようにして衣服を購入するためのお金を貯めるのだろうか。</li> <li>長期と短期の金融取引の違いやそれによって計画や決定がいかに異なるかを理解し始める。例えば、CDやCDプレイヤー、海水浴や休暇といった様々な支出のために貯蓄するか、どのように貯蓄すればよいのかを考察する。</li> </ul> <p>&lt;リスクとリターン&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>確率と保険の原理について理解を進める。例えば、自家用車を保有したり、車を運転することに伴う潜在的なリスクを確認してみる。様々な保険契約のコストとベネフィットを比較する。どんなリスクにも保険はかけられるだろうか。保険料はリスクに見合うだろうか。</li> <li>貯蓄も借入れも条件や金利が異なっていることを理解し始める。例えば、市中金融機関が店頭で提供する様々な口座の金利を計算したり、アクセスしやすさを比較してみる。日々の生計費はどこにおいておくだろうか、大きな買物をするためのお金はどこに貯金をするだろうか。</li> <li>金利が期間によって様々であることを理解し始める。例えば、2年超の住宅ローン金利を比較してみる。</li> </ul>	<p>&lt;個人の人生における選択&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中期、短期のニーズに照らして決定するようになる。例えば、日常利用するバス料金について、1週間、1ヵ月、および年間パスの料金を比較してみる。</li> <li>長期、中期、短期のニーズを認識できるようになる。例えば、人生における人々の様々なニーズをケーススタディで試みる。</li> <li>限られたお金の範囲内における様々なニーズの優先順位を付け始める。例えば、限られた予算で学校行事を実行する。選択肢を確認して、コストや優先順位を付けることにより、どのようにお金を使うかを決定する。</li> <li>様々なニーズや欲しいものについての個人の金銭的価値を置き始める。例えば、ブランドものとは違う衣服について品質やコストを話し合う。どちらに価値があるだろうか。人によってどのように答えが異なるだろうか。</li> <li>負債をいかに計画し、管理するかを理解し始める。例えば、ゲームセットを現在クレジットで購入する費用を調査して、お金を貯めてから購入するのと比較してみる。コストの差はそれに値するだろうか。</li> </ul> <p>&lt;消費者の権利と責任&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人によって金融に関する助言が異なることを理解する。例えば、お金の使い方や貯め方について誰に(両親、友人、先生、銀行員)にアドバイスを求めるか、どのようなアドバイスを求めるかを考えてみる。</li> </ul> <p>&lt;金融のインプリケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関の役割を知る。例えば、市中の銀行、オンライン銀行、スーパーマーケット経由の銀行取引を比較してみる。</li> <li>個人の金融に関する決定が及ぼすインプリケーションについてより広く理解し始める。例えば、募金の方法をいくつか探してみる。</li> <li>地方政府や国家の決定がどのように個人の金融に影響を及ぼすかを理解し始める。例えば、現在の給付金制度と戦後の改革とを比較してみる。</li> <li>地方・国・世界の金融情勢が個人の人生にインパクトを与えようということを理解し始める。例えば、1920年代のドイツのハイパーインフレーションの影響を調べてみる。</li> </ul>

	金 融 能 力	金 融 に 関 す る 実 行 力	金 融 に 関 す る 責 任 能 力
ステージ4： 大人への準備 (10～11年 ＜14～16才＞)	<p>&lt;お金とは何か、お金の交換機能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期購読や直接支払いを含め、様々な支払方法の長所・短所を理解する。例えば、公共料金、毎週の買物、住宅ローン、家賃等について、どのような支払方法が可能または適切であるかについて考えてみる。</li> <li>・当座貸越や各種のローンを含む借入やクレジットの意味や金利を比較する方法について理解を深める。例えば、街頭で宣伝しているローンや当座貸越と、インターネットで探した最も有利な取引を比較してみる。異なる利率を比較する際に年率と年率相当レートをどのように用いられているかを調べる。</li> </ul> <p>&lt;お金はどこからくるか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金、社会保険、年金といった収入からの控除がどのようになされるのかを理解する。例えば、企業経営プロジェクトの一部として、労働者それぞれの賃金と控除額を計算してみる。</li> <li>・学生ローンを含め、卒業後の収入と学生向けの特別給付金について知識を得る。例えば、若者がより高度な教育を受けるための資金を調達する方法を探してみる。</li> <li>・企業やその他の団体が株式発行を含めて、どのように資金調達するのかを理解する。例えば、株式の売買や取引所を調査する。</li> </ul> <p>&lt;お金はどこに行くのか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の支出の範囲やいかに管理するかを理解する。例えば、若者のお金の使い方を、自宅居住者、アパート住まい、共同生活に分けて比較する。</li> <li>・政府がいかに、またなぜ資金調達するかを基本的に理解する。例えば、政府がお金をどこで調達し、どのようにお金を支出しているかを調査する。</li> </ul>	<p>&lt;お金を管理する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の金融取引記録を、銀行取引、クレジット・カード、公共料金を含めて理解する。例えば、様々な支払記録を集めて読み取ってみる。理解しやすくなるように変更するにはどうすれば良いのかを考える。</li> </ul> <p>&lt;お金を使う、予算をたてる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の収入と支出を計画したり、記録したり、管理する方法を理解する。例えば、個人のお金の記録をつける方法を評価してみる。</li> <li>・長期、中期、短期の金融取引における相違点ならびに、それによって計画や決定がいかに異なるかを理解する。例えば、個人が人生において行う金融取引上の決定をブレインストーミングする。長期取引と短期取引について、その違いを話し合ってみる。</li> <li>・中央・地方府の金融に関する記録について理解し始める。例えば、地方議員を招いて地方政府の財務に関して質疑応答を行う。</li> </ul> <p>&lt;リスクとリターン&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑な状況における確率と保険の原則を理解し、潜在的なリスクとそのリスクにいかに対応するかを確認する。例えば、個人の生命保険、医療保険、重大疾病保険を調査する。リスクの発生率を、コストと潜在的なベネフィットとともに評価してみる。</li> <li>・貯蓄も借入れも期間によって、条件や金利が異なることを理解する。例えば、様々な貯蓄の収益率やアクセスしやすさを1年、5年、10年で比較してみる。仮に、翌週、翌年、5年のうちに、あるいは緊急で必要となる1,000ポンドがある場合に、どのような金融商品にしておくだろうか。</li> <li>・一部のローンや購入契約は保証されているものもあるが、保証されていないものもあることを理解する。例えば、様々な金融団体に対して返済の延滞への対応について手紙で照会する。住宅ローンの返済を滞らせたなら、何が起こるだろうか。クレジットカードについてはどうか。</li> <li>・貯蓄商品と投資商品のリスクとリターンの相違点を理解する。例えば、過去5年、10年、20年間の貯蓄・投資商品のパフォーマンスを比較する。ローリスク・ローリターンの貯蓄とハイリスク・ハイリターンの投資の長短を議論してみる。</li> </ul>	<p>&lt;個人の人生における選択&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期、中期、短期のニーズに照らして決定することができる。例えば、人生における人々のニーズを認識し、どのように金銭を工面しているかのケーススタディをする。</li> <li>・様々なニーズや欲しいことに個人の金銭的価値を置き、限られたお金の中で優先順位を付けることができるようになる。例えば、地元の食料品の値段を調べ、限られた予算の中でどのように健康的かつ好みにあう食事ができるかを調べてみる。</li> <li>・負債をどのように計画し、管理するかについて理解する。例えば、市民助言事務局の金銭アドバイス事業からアドバイザーを呼んで負債の問題について討議する。</li> <li>・若者向けの一般的な短期および中期の金融商品について理解し、知識を得る。例えば、インターネットや店頭で提供されている様々な商品を調査してみる。生徒が今後5年間にどのような種類の金融商品を必要とするかを話し合ってみる。</li> <li>・職業の選択や生涯学習についても個人の選択がもたらす金融面のインプリケーションを評価することができる。例えば、異なる職業選択がもたらす収入を評価する。より不確実な報酬の可能性と個人の満足感を比較して話し合ってみる。</li> </ul> <p>&lt;消費者の権利と責任&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融アドバイザー、市民助言事務局、商品広告、個人金融に関するメディアを含めた金融アドバイスや情報について、各種の情報源を評価し、比較することができる。例えば、異なる状況においてどの情報源が適切かをロールプレイで探してみる。</li> <li>・金融商品に関する権利と義務が商品によって異なることを理解する。例えば、銀行と信用組合のローン条件を比較してみる。</li> </ul> <p>&lt;金融のインプリケーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融機関における規制や消費者保護の役割について理解する。例えば、どのように消費者が悪質な金融アドバイスから保護されているか、預金した金融機関が破綻した場合はどうかについて調べてみる。</li> <li>・個人の金融に関する決定がもたらすインプリケーションをより広く理解する。例えば、道徳的投資についての賛否を議論してみる。</li> <li>・地方や国の決定が個人の金融にどのような影響を及ぼすかについて理解を深める。例えば、ケーススタディを用いて、税体系の違いが個人の金融に及ぼす影響について調査したり、議論してみる。</li> <li>・国、地方、世界の金融がそれぞれの人生に影響を及ぼすことについての理解を発展させる。例えば、金利がどのように決まるのかについて調べたり、高金利あるいは低金利の影響について調査してみる。</li> </ul>